

東北海区沿岸水温予報(2008年)

海域	経過 (2~4月)	現況 (5月~6月上旬)	見通し (6~8月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水セ発表)	定線観測結果(太平洋) 3月 津軽暖流域の各層水温は、50m層でやや低く、0、100m層では平年並み、津軽暖流の東方への張り出しは平年よりやや東偏していました。 定地水温(平年差) 2月: やや低い~平年並 3月: やや低い~平年並 4月: やや低い	定地水温(平年差) 5月: やや低い 6月上旬: 低い~やや低い	津軽暖流域の水温はやや低め~平年並で推移する。 津軽暖流の東方への張り出しはやや弱勢~平年並。	5月の日本海定線観測結果では、各層水温は低い~平年並、水塊深度及び北上流量は平年並で対馬暖流の勢力は平年並である。 徐々に勢力は弱まっているが、親潮系冷水が沖合いにいたるため各地の定地水温は低めの状態が続いている。	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	2月 表面: 県中北部沖合30~40海里から県南部沖合40~50海里にかけての海域を除くほぼ全域で平年並~低め、県中南部沖合50海里および県南部沖合50海里で高めのほかは平年並。 100m: 県中南部沖合50海里から県南部沖合40~50海里にかけての海域を除くほぼ全域で平年並~低め、県中南部沖合50海里および県南部沖合50海里でやや高めのほかは平年並。 3月 表面: 県中南部沖合40~50海里、県南部沖合20海里および50海里でやや高めのほかは、ほぼ全域で平年並~低め。 100m: 県北部沖合30~40海里から県中北部沖合30~50海里にかけて、県中南部沖合30海里から県南部沖合30~40海里にかけておよび県南部沿岸0~10海里でやや低めのほかは概ね平年並。 4月 表面: 県中北部から県南部の沖合10海里でやや低め、県中北部沖合20海里から県中南部沖合及び県南部沖合の40海里でやや高め~極めて高め。 100m: 県中北部沖合5~20海里と県中南部沖合10~30海里、県南部沿岸0~20海里で平年並~やや低め、県中北部沖合30~50海里から県中南部沖合40海里、県南部沖合40~50海里にかけて平年並~高め。	表面: 県北部沿岸0~10海里付近と県南部沿岸0~10海里で平年並のほかは、やや高め~高め。 100m: 県北部沖合5~20海里と県中南部沖合から県南部沖合の5~10海里にかけて平年並のほかはやや高め。	県北部と県南部は平年並。県中部はやや高めに推移する。	6月の定線観測結果では、表面の平年偏差が県中部でやや高め~高め。また、100m深の平年偏差は県中部でやや高めで推移している。 100m深水温予測では全域で平年並との見通し。	4月から確認されていたキタミズクラゲは、減少傾向にあるものの依然、定置網等への入網が確認されている。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	2月には、表面水温は、7~11台で、平年より概ね1~2台高めであった。100m深水温については、8~11台で平年より概ね1~2台高めであった。表面水温・100m深水温とも、岸寄りの海域では、平年と同程度の水温であった。 3月には、表面水温は、3~11台であったが、142°E~142°30'E付近の海域では3~5台で、平年より1~3台低めであった。100m深水温については4~8台であった。この内142°E~143°E付近の海域では5~7台で概ね平年より1~2台低めであったが、これ以外の海域では概ね平年並みであった。 4月には、表面水温は、5~10台であった。沖合域では平年より概ね1~2台高めであったが、岸寄りの海域並びに亘理沖合(38°N)143°E付近では平年より低めであった。100m深水温については3~7台であった。雄勝沖合(38°30'N)では、平年と同程度の水温であったが、亘理沖合では平年より低めであった。	5月には、表面水温は8~15台であった。沖合域では平年より1~3台高めであったが、岸寄りの海域では平年並み又は1~2台低めであった。100m深水温については4~10台であった。沖合域では平年より1~2台高めであったが、142°E付近の海域を中心に平年より1~2台低めであった。 6月には、表面水温は12~19台であった。仙台湾周辺海域では平年より1~2台低めであったが、沖合の海域を中心に平年並み又は1~3台高めであった。100m深水温については4~11台であった。雄勝沖合142°E以東の海域では平年より概ね1~2台高めであったが、これ以外の海域では平年より1~5台低めであった。	100m深水温について、雄勝沖合(38°30'N)と亘理沖合(38°N)の142°~142°30'E付近の海域では平年より1~2台高めであった。7月~8月に平年より低めで推移する。 亘理沖合143°E付近の海域では、7月に平年並みだが、8月には平年よりやや高めで推移する。 岸よりの海域及び気仙沼沖合(39°N)では、7~8月に、平年並みまたはやや低めで推移する。	「宮城県沿岸海域の海況予測モデル」を用いて、100m深水温による予測を実施した。(2008年6月について、類似年は1998年、2005年であった)。 仙台湾の底層水温が低めに推移したことによりカタクチイワシの来遊量が少なく、ゴウナゴ漁が持続した。	5月には仙台湾沖合の冷水の影響で、仙台湾の底層水温が低めに推移したことによりカタクチイワシの来遊量が少なく、ゴウナゴ漁が持続した。

常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試 発表)	2月の中北部海域の沖合へ黒潮系暖水が波及し、水温は平年よりやや高めであった。また3月上旬頃まで本県中南部海域のごく沿岸へ南から暖水舌が張り出し、中南部海域沖10海里付近の表面水温で平年よりやや高め～極めて高めがみられた。3月下旬頃親潮系冷水の南下がみられ、以降本県沿岸は親潮系冷水が卓越する海況となり、水温は平年より低めで経過した。	5月、本県沖は広く親潮由来とみられる低温・低塩分な水塊に覆われ、水温は平年よりやや低めであった。5月下旬から6月上旬にかけて親潮系冷水の影響が弱まり、沖合からの暖水波及傾向がみられている。	親潮系冷水の影響は6月まで持続するものの期間後半に弱まってゆく。福島南部海域沖では沖合からの黒潮系暖水の波及傾向がみられる。水温は平年並で推移すると予測される。	本県周辺海域の海洋観測データの統計解析結果から、現状の親潮系冷水の影響は期間後半に弱まると予測された。FRA-JCOPEの予測結果から常磐海域へ黒潮系暖水が波及しやすい海況で経過すると予測した。	3月から5月まで行われる船びき網のコウナゴ漁が、過去5年平均水揚量の2.7倍とここ数年で最高の水揚げ量を記録した。4月上旬以降各種漁獲調査にてクロナエがしばしば採集されている。
常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試 発表)	2月：水温は高めで推移した。ごく灘寄りでは南下流、その沖には暖水渦が形成され、両者の間に潮目が形成された。黒潮はN型基調で推移した。 表面水温：14～20 北部海域「高い」～「極めて高い」 南部海域「やや高い」～「極めて高い」 100m深水温：13～19 北部海域「高い」～「極めて高い」 南部海域「やや高い」～「極めて高い」 3月：暖水渦はその規模を縮小し、北方から混合水が大規模に流入したため、前月に比べて大幅に水温が低下した。ただし平年と比べると高めで推移した。黒潮流路はN型基調からB型へ変化した。 表面水温：10～16 北部海域「やや低い」～「高い」 南部海域「やや低い」～「高い」 100m深水温：9～14 北部海域「やや低い」～「極めて高い」 南部海域「やや低い」～「やや高い」 4月：暖水渦は消滅し、沿岸域の流れは南下流へ変化した。それに伴い北方から親潮系冷水が流入し、水温は低めとなった。黒潮流路はB型で推移した。 表面水温：7～18 北部海域「極めて低い」～「やや高い」 南部海域「やや低い」～「極めて高い」 100m深水温：5～13 北部海域「極めて低い」～「平年並み」 南部海域「やや低い」～「平年並み」	本県海域の流れは概ね南下流が卓越して、北方から親潮系冷水が流入している。そのため平年と比べると表層から下層まで一様に低め基調となっている。 黒潮は房総半島に接岸し、犬吠埼をかすめるように東方へ流れている。 (6月上旬の海洋観測結果) 表面水温：12～22 北部海域「低い」～「平年並み」 南部海域「やや低い」～「やや高い」 100m深水温：3～18 北部海域「極めて低い」～「やや低い」 南部海域「極めて低い」～「やや高い」	当初は下層を中心にして低温環境が持続するが、徐々に解消する。	現在、本県海域は南下流が卓越しており、今後も北方から親潮系冷水が南下してくると考えられる。一方で海面付近は気温の上昇により暖められ、低温傾向は解消に向かうと考えられる。このことから本県海域の海面付近は平年並みへ変化し、海面下は当面低温環境が持続すると推測される。 年による変動はあるものの統計的に6月～8月にかけて親潮第1分枝は後退する傾向があることから、東北海域の昇温とともに本県海域への冷水の波及は徐々に弱まると考えられる。	5月初旬に本県海域の水深60m程度で行われた底引き網の漁獲物に、通常は150m以深に生息するオケソウムシによる食害が発生した。このような浅海域で食害が発生したのは初めてである。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4～	+4.0～	+6.0～	+2.4～	+4.0～	+4.0～
高い(7.5%)	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	4.0～+5.9	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	+2.5～+3.9
やや高い(20%)	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	1.5～+3.9	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	+1.0～+2.4
平年並み(40%)	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	1.4～-1.4	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	+0.9～-0.9
やや低い(20%)	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	1.5～-3.9	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	-1.0～-2.4
低い(7.5%)	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	4.0～-5.9	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	-2.5～-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4～	-4.0～	-6.0～	-2.4～	-4.0～	-4.0～